

北海道教育委員会教育長 様

令和7年3月18日
北海道札幌厚別高等学校長 高橋 一矢

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 学校教育目標

- (1) 意欲的に学び、主体的に判断し、自律的な行動ができる人間の育成
- (2) 社会の変化に対応し、豊かに逞しく生きることができる人間の育成
- (3) 探究心を持ち、協働して新たな価値を創造しようとする人間の育成

2 今年度の重点目標

ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

3 自己評価結果 下表「達成状況」

評価基準 A：達成している、B：おおむね達成している、C：やや不十分である、D：不十分である

4 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である、C：やや不適切な評価である、D：不適切な評価である

(2) 改善に向けた取り組みの適切さ

A：十分な効果が期待できる、B：ほぼ十分な効果が期待できる、C：あまり効果が期待できない、D：まったく効果は期待できない

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取り組みの適切さ
学習指導	(1) 授業規律を徹底して学習習慣の定着を図り、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	(1) 授業規律の徹底により学習習慣の定着を図ることや、授業や朝活動を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させることができたか。	B	朝学習等の取り組みを通じて、落ち着いて学習に取り組む姿勢が定着してきた。基礎的・基本的な技能習得の方法を、試行錯誤しながら模索していく。	A	B
	(2) ICT を効果的に活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	(2) ICT を効果的に活用した授業に取り組み、実践例を共有できたか。	B	ICT の使用は広がったが、効果的な活用の共有までには至っていないので、個別最適化と協働的な学びについて実践と共有を進める。		
	(3) 指導と評価の一体化を図り、生徒の学習活動や指導方法の改善に生かす。	(3) 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく観点別評価を適切に実施できたか。	A	3 観点による評価が進んだが、教科内だけでなく、教科間でも方策の共有を図り、生徒のより一層の成長につながる評価方法を模索する。		
	学校関係者の意見	互いの学習指導での ICT 活用は難しい面もある。その他の場面（情報発信、保護者とのやりとりなど）での活用から広げていく。				
生徒指導	(1) 時間を守ること、挨拶すること、マナーを守ることなど、基本的な生活規律の遵守を徹底する。	(1) 分掌・年次・教科担の連携を図り、基本的な生活規律の遵守を徹底できたか。	A	指導によって守る生活規律ではなく、一人一人が主体的に生活規律の重要性を理解し、自律的に遵守する方策を探り、HR での指導方法を改良する。	A	A
	(2) 自他の生命を大切にさせ、他者を尊重し「いじめは絶対に許されない」という意識や態度を育成する。	(2) 授業やHR、学校行事等の機会を捉え、他者を尊重し「いじめは絶対に許されない」という意識や態度の育成に努めることができたか。	A	毎年の学校いじめ基本方針改訂作業の取り組みを通じて、自分や他者の人権を尊重する姿勢を引き続き育てていく。		
	(3) 情報モラルを身に付け、情報化社会に主体的に関わる態度を育成する。	(3) 教科・HR指導や講演会、各種資料を活用した啓発活動等の実施を通して、SNS の危険性など情報モラルの在り方について考えさせることができたか。	A	生成 AI 時代の「情報モラル」指導に対して、教職員が常識や知識を更新しつづけ、生徒の指導に活かしていく。		
	学校関係者の意見	SNS における生徒同士の関係性は表面化しにくいところに指導の難しさがある。実情を把握する方策を検討することと知識を更新していく作業が欠かせない。				
進路指導	(1) 進路指導計画に基づく系統的な学習及び進路指導を通して、個々の進路実現に必要な能力を育成する。	(1) 各種模試等のデータ分析とフィードバックを適切に行い、個々の生徒の状況に応じた進路指導を行うことができたか。	A	一人一台端末を活用し、自己の進路希望に合った情報を的確に収集・分析できるような学びを意識的に取り入れる。	A	A
	(2) 主体的な進路選択・進路実現に向けて、生徒・保護者に対し個々の状況に応じた適時・適切な情報提供・支援に努める。	(2) 二者面談や三者面談、進路セミナーやガイダンス等の計画的な実施を通して、生徒や保護者に適切な情報提供を行うことができたか。	A	端末を活用し、生徒・保護者との連絡・情報交換を緊密に行うだけでなく、効果的・実用的な活用ができるように学校側の体制も整える。		
	(3) 自己の在り方生き方を考えさせ、主体的に進路を選択する能力を育成する。	(3) 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」における探究活動の過程や成果を自己の在り方生き方に反映させながら、進路目標設定に導くことができたか。	B	生徒が自分自身の興味関心の方向を把握し、自身の最終目標を確認した上で「探究」できるように、適切なアドバイスの方法を求め続ける。		
	学校関係者の意見	外部人材を登用し、社会とのつながりを意識した進路指導を求めたい。特に、厚別高校ゆかりの人材に熱のこもった講演をしていただくなど、生徒自身が自分の将来をイメージできるような取り組みをして欲しい。				
健康・安全指導	(1) 感染予防や自らの心身の健康に対する意識を高め、管理できる力を育成する。	(1) 健康相談やチェックシート、保健だより等を活用して、自分自身の健康状態を把握させ、感染予防や健康管理の意識を高めることができたか。	A	保健室に集まった情報が、「教育相談室」や SC との面談につながるようになってきた。生徒自身が自己の心身の健康状態を把握に努めるよう促す。	A	A
	(2) 生徒の多様な実態や一人一人が抱える課題を把握し、迅速かつ組織的に対応できるような教育相談体制の充実を図る。	(2) 心の悩みを抱えた生徒の状況や対応の仕方について、教員間で共有し、保護者、SC、専門機関等との連携を図り、適切に支援できたか。	A	教職員だけでは解決できない事例が増えているため、SC や SSW の常駐が望まれる。「今の私」を基にした、丁寧な聞き取りと対応を重視する。		
	(3) 安全確保のために必要な事項を理解させ、安全な生活を送ることができる資質・能力を育成する。	(3) 防災・防犯・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、自他の安全に配慮した適切な行動をとらせることができたか。	A	日頃から不測の災害を意識し、危機管理マニュアルの確認と定期的な見直し、学校全体への啓蒙をはかる。		
	学校関係者の意見	自殺願望などのケースに備え、外部機関による「命の授業」などを通じて学校側の意識を積極的に生徒に伝えて欲しい。特別支援については外部機関とのつながりを大切にし、的確な対応ができるように体制を整えて欲しい。				
働き方	(1) ワークライフバランスの視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進する。		B	教職員の心身のゆとりが、安全安心な学校づくりの第一歩となるという考え方を基盤とし、教職員全員が共有できる職場の雰囲気をつくっていく。	A	A
	(2) 部活動休養日等の完全実施など、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する。		A			
		学校関係者の意見	達成感や満足感が感じられない仕事が長時間に及ぶと精神的に追い込まれていく。やりがいと充実感のある仕事をして欲しい。			